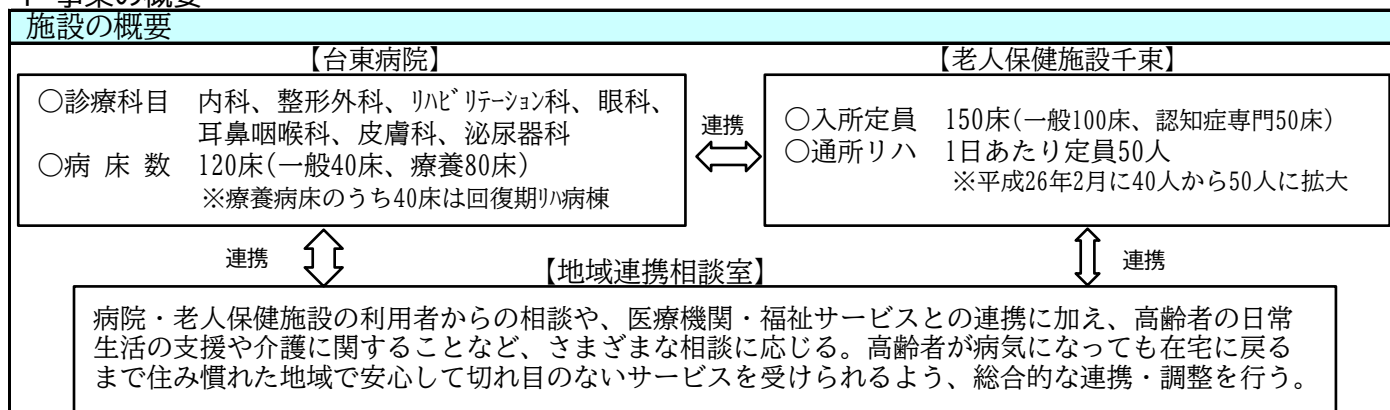


令和5年度 台東区立台東病院及び老人保健施設千束 運営評価表
(令和4年度実績の評価)

施設名	台東区立台東病院・老人保健施設千束
事業開始年度	平成21年度
開設者	台東区(病院所管課:健康部健康課、老健所管課:福祉部高齢福祉課)
指定管理者	公益社団法人地域医療振興協会
評価の目的	サービスの提供の効果等について、記録、測定又は分析し、一定の基準に照らして客観的に評価・検証することにより、業務・運営等を継続的に改善させる。
評価内容	○新台東病院等整備基本計画に定める基本理念を的確に反映しているか。 ○基本協定書に基づき、保健・医療・福祉機能とその役割を適切に果たしているか。 ○地域に開かれた施設になっているか。
評価項目	①役割・機能、②効率性・経済性、③計画性・改善状況等

1 事業の概要



施設の基本理念

- 高齢者が住み慣れた地域で療養できるよう、高齢者の慢性疾患に対応する病院と在宅復帰に必要な入所施設を一体的に確保します。
- 高齢者がいつまでも自分らしく、安心した在宅生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉サービスを提供します。
- 高齢者が施設や在宅に必要な保健・医療・福祉サービスを円滑に利用できるよう、サービスの担い手との連携を積極的に推進します。
- 安心して子育てができるよう、医療の面から支援します。
- 快適な療養環境や質の高いサービスを効率的に提供します。
- 『運営の透明性』、『区民に対する説明責任』を確保し、上記の理念が適切に果たされていることを区民の視点に立って評価・検証します。

基本方針

台東病院	<ul style="list-style-type: none"> ○総合医を中心としたチームによる医療を提供します。 ○利用者本位で、満足度の高い医療を提供します。 ○関係機関との連携を推進し、安心して在宅生活を送れるよう、医療を提供します。 ○医療従事者の育成と資質の向上に努めます。 ○区の小児初期救急医療のしくみを補完します。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。
老健千束	<ul style="list-style-type: none"> ○良質で包括的なサービスを提供します。 ○利用者の人格及び意思を尊重し、快適で質の高い療養・介護環境を提供します。 ○地域の福祉関連機関との連携のもと、円滑な在宅復帰を目指します。 ○病院に併設されていることの利点を最大限に活かします。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。

2 指定管理者の運営理念等

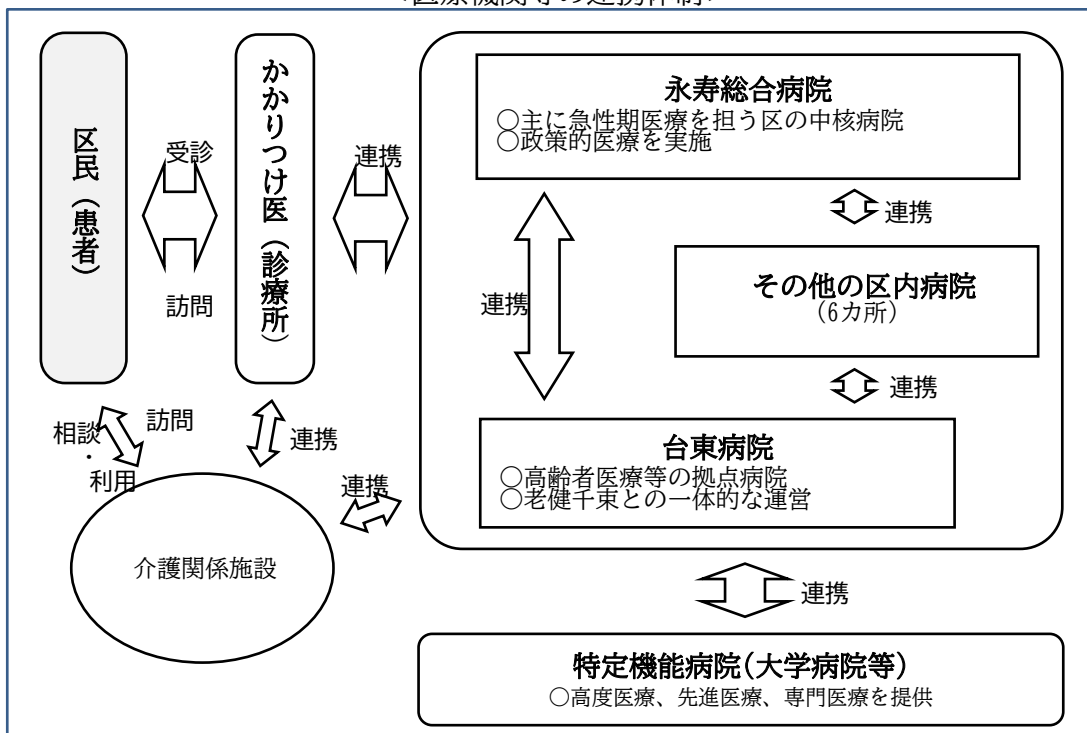
運営理念

『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します

運営基本方針

- 高齢者医療に力をいれます
- 在宅医療を支援します
- まずは受け入れるという姿勢を持ちます
- 地域と連携してサービスを提供します
- 医療に恵まれない地域の支援を行います

<医療機関等の連携体制>



3 事業の現況とその推移

(1) 経営の状況

(1,000円未満を四捨五入、単位:千円)

区分		R2年度	R3年度	R4年度	前年度比	主な計上科目	
台東病院	収益	医業収益	1,933,295	2,114,418	2,097,145	△ 17,273	入院・外来収益等
		医業外収益	107,018	213,504	499,155	285,651	指定管理料・新型コロナウイルス関連補助金等
		合計	2,040,313	2,327,922	2,596,300	268,378	
		(うち指定管理料)	18,700	18,700	18,700	0	
	費用	医業費用	2,146,515	2,159,979	2,294,808	134,829	給与費・材料費・委託費等
		医業外費用	26,901	19,015	38,976	19,961	その他の事業外費用
		合計	2,173,416	2,178,994	2,333,784	154,790	
	損益	医業損益	△ 213,220	△ 45,560	△ 197,663	△ 152,103	—
		医業外損益	80,117	194,489	460,179	265,690	—
		合計	△ 133,102	148,928	262,516	113,588	
老健千束	収益	事業収益	912,921	852,510	922,387	69,877	介護保険施設介護料収益
		事業外収益	40,877	8,241	16,323	8,082	受託収益・新型コロナウイルス関連補助金等
		合計	953,799	860,750	938,710	77,960	
		(うち指定管理料)	0	0	0	0	—
	費用	事業費用	936,509	953,835	1,016,446	62,611	給与費・材料費・委託費等
		事業外費用	9,223	24,474	48,112	23,638	その他の事業外費用
		合計	945,732	978,309	1,064,558	86,249	
	損益	事業損益	△ 23,587	△ 101,325	△ 94,059	7,266	—
		事業外損益	31,654	△ 16,233	△ 31,789	△ 15,556	—
		合計	8,067	△ 117,558	△ 125,848	△ 8,290	
全体	収益	事業収益	2,846,217	2,966,928	3,019,531	52,603	
		事業外収益	147,896	221,744	515,478	293,734	
		合計	2,994,112	3,188,673	3,535,009	346,336	
		(うち指定管理料)	18,700	18,700	18,700	0	
	費用	事業費用	3,083,023	3,113,814	3,311,254	197,440	
		事業外費用	36,124	43,489	87,088	43,599	
		合計	3,119,147	3,157,302	3,398,342	241,040	
	損益	事業損益	△ 236,807	△ 146,885	△ 291,722	△ 144,837	
		事業外損益	111,772	178,255	428,390	250,135	
		合計	△ 125,035	31,370	136,668	105,298	

収支の概要

台東病院	<p>前年度と比べ、医業収益は1,727万円(0.8%)減の20億9,715万円、医業費用は約1億3,483万円(6.2%)増の22億9,481万円で、医業損益は1億5,210万円(333.8%)減の1億9,760万円の赤字となった。</p> <p>医業外収益は2億8,565万円(133.8%)増の4億9,916万円(指定管理料1,870万円・新型コロナウイルス関連補助金3億7,158万円・新型コロナウイルスワクチン集団接種確保業務委託料等5,825万円を含む)、医業外費用は1,996万円(105.0%)増の3,898万円で、医業外損益は2億6,569万円(136.6%)増の4億6,018万円の黒字となった。</p> <p>この結果、台東病院全体の損益は1億1,359万円(76.3%)増の2億6,252万円の黒字となった。</p>
老健千束	<p>前年度と比べ、事業収益は6,988万円(8.2%)増の9億2,239万円、事業費用は6,261万円(6.6%)増の10億1,645万円で、事業損益は727万円(7.2%)増の9,406万円の赤字となった。</p> <p>事業外収益は808万円(98.1%)増の1,632万円(新型コロナウイルス関連補助金481万円含む)、事業外費用は2,364万円(96.6%)増の4,811万円で、事業外損益は1,556万円(95.8%)減の3,179万円の赤字となった。</p> <p>この結果、老健千束全体の損益は829万円(7.1%)減の1億2,585万円の赤字となった。</p>

(2)運営の状況

①役割・機能
【台東病院】

区分		R2年度	R3年度	R4年度	前年度比	備考
体制	職員数	156.0人	147.4人	135.0人	△12.4人	○年度末を基準とする ○常勤医師以外は常勤換算 人数 ○職員数合計は医師、看護・ 介護職員、リハビリ職員の合 算
	医師	19.4人	18.6人	17.0人	△1.6人	
	常勤医師	11.5人	11.5人	10.5人	△1.0人	
	非常勤医師	7.9人	7.1人	6.5人	△0.6人	
	看護・介護職員	105.6人	96.8人	88.0人	△8.8人	
	リハビリ職員	31.0人	32.0人	30.0人	△2.0人	
入院	病床利用率	82.1%	83.2%	81.5%	△1.7%	病床利用率=入院延べ患者 数÷延べ病床数×100
	一般	76.7%	78.1%	75.6%	△2.5%	
	回復期リハ	82.6%	84.8%	83.2%	△1.6%	
	療養	87.1%	86.8%	85.8%	△1.0%	
	延べ入院患者数	35,964人	36,448人	35,705人	△743人	
	50歳代以下	11.6%	5.1%	9.9%	4.8%	
	60歳代	8.0%	6.3%	6.5%	0.2%	
	70歳代	21.5%	28.5%	22.1%	△6.4%	
	80歳代	38.4%	39.5%	41.1%	1.6%	
	90歳代以上	20.5%	20.6%	20.3%	△0.3%	
	新入院患者数	961人	1,036人	1,030人	△6人	令和4年度に新たに入院した 患者数
	一般	776人	817人	832人	15人	
	回復期リハ	103人	132人	117人	△15人	
	療養	82人	87人	81人	△6人	
平均在院日数	37.5日	34.8日	34.8日	0.0日	延べ入院患者数÷{(新入院 患者数+退院患者数)÷2}	
一般	16.8日	15.9日	15.2日	△0.7日		
回復期リハ	72.8日	64.8日	67.3日	2.5日		
療養	90.0日	99.7日	104.4日	4.7日		
台東区民の占める割合	88.2%	86.1%	89.2%	3.1%		
回復期リハ病棟の在宅復帰率	93.0%	91.5%	96.2%	4.7%	1年間分	
外来	延べ患者数	64,029人	64,095人	64,231人	136人	
	1日平均患者数	218.5人	218.8人	219.2人	0.5人	延べ患者数÷外来診療日数
	初診患者数	8,700人	8,832人	9,632人	800人	初診料を算定した患者数
	新患率	13.6%	13.8%	15.0%	1.2%	初診患者数÷延べ患者数×100
	台東区民の占める割合	88.2%	88.9%	88.4%	△0.5%	
	初期救急患者数	974人	851人	1,210人	359人	R4年度 発熱外来受診者 3,342人
	救急車受入数	275人	319人	293人	△26人	
来院患者数	699人	532人	917人	385人		

【老健千束】

区分		R2年度	R3年度	R4年度	前年度比	備考
体制	職員数	87.6人	87.0人	85.9人	△1.1人	○年度末を基準とする ○全て常勤換算人数
	医師	1.5人	1.5人	1.5人	0.0人	
	介護・看護職員	73.6人	73.5人	73.6人	0.1人	
	リハビリ職員	12.5人	12.0人	10.8人	△1.2人	
入所	入所利用率	88.0%	83.0%	87.9%	4.9%	延べ入所者数÷延べベッド数×100
	1日あたり短期入所者数	4.6人	3.6人	5.4人	1.8人	延べ短期入所者数÷365日 (閏年は366日)
	延べ入所者数	48,204人	45,428人	48,151人	2,723人	延べ入所者数は長期入所と 短期入所(ショートステイ)の合算
	60歳代以下	2.3%	3.5%	5.2%	1.7%	
	70歳代	9.7%	15.1%	12.4%	△2.7%	
	80歳代	43.4%	40.7%	43.5%	△2.8%	
		90歳代以上	44.4%	40.7%	39.0%	△1.7%
	平均在所日数	265.0日	218.3日	245.5日	27.2日	入所延べ日数÷{(新規入所者数 +退所者数)÷2} ※1年間分
	回転率	11.5%	13.9%	12.4%	△1.5%	月間平均暦日数÷平均在所日数×100
台東区民の占める割合	99.9%	99.9%	99.9%	0%		
在宅復帰率	36.6%	26.5%	19.3%	△7.2%	退所先が自宅やグループホーム等の割合	
通所	1日あたりの利用者数	29.9人	23.4人	25.9人	2.5人	延べ利用者数÷通所営業日数
	台東区民の占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	0%	

【連携等】

区分		R2年度	R3年度	R4年度	前年度比	備考	
地域連携相談室	職員数	10.0人	10.0人	10.0人	0.0人	全て常勤換算人数	
	社会福祉士	4.0人	3.0人	3.0人	0.0人		
	支援相談員	3.0人	3.0人	3.0人	0.0人		
	介護支援専門員	2.0人	3.0人	3.0人	0.0人		
	事務員	1.0人	1.0人	1.0人	0.0人		
	相談件数	2,150件	2,200件	2,319件	119件	主たる内容により区分	
	入院(一般)	776件	817件	832件	15件		
	入院(回復期リハ)	416件	430件	458件	28件		
	入院(療養)	246件	235件	214件	△21件		
	入所	528件	595件	657件	62件		
通所	184件	123件	158件	35件			
紹介	入院患者	457人	467人	464人	△3人	○検査依頼を除く、医師の紹介状(診療情報提供書)を持参した患者数	
	一般	273人	251人	268人	17人		
	回復期リハ	103人	130人	117人	△13人		
	療養	81人	86人	79人	△7人		
	診療所からの紹介(再掲)	102人	93人	91人	△2人		
	外来患者	829人	787人	794人	7人	○紹介率=(紹介状持参患者数+救急患者数)÷初診料算定患者数 (1,258+293)/10,032 = 15.5%	
	病院から	350人	314人	320人	6人		
診療所から	445人	441人	426人	△15人			
施設から	34人	32人	48人	16人			
逆紹介	入院患者	371人	405人	412人	7人	○診療情報提供料を算定した患者数(返送患者を含む) ○逆紹介率=診療情報提供料算定患者数÷初診料算定患者数 1,917/10,032 = 19.1%	
	一般	193人	205人	210人	5人		
	回復期リハ	112人	144人	133人	△11人		
	療養	66人	56人	69人	13人		
	診療所への逆紹介(再掲)	145人	170人	153人	△17人		
	外来患者	1,481人	1,472人	1,505人	33人		
	病院へ	1,100人	999人	1,051人	52人		
診療所へ	325人	381人	364人	△17人			
施設へ	8人	25人	12人	△13人			
宛名なし等	48人	67人	78人	11人			
返送	入院患者	73人	93人	69人	△24人	診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送(診療情報提供料を算定)した患者数	
	一般	46人	49人	37人	△12人		
	回復期リハ	22人	29人	22人	△7人		
	療養	5人	15人	10人	△5人		
診療所への返送(再掲)	49人	50人	42人	△8人			
入退院患者・入退所者の経路	新入院患者	自宅から	45.4%	49.5%	45.8%	△3.7%	新入院患者の総数は、令和2年度961人、令和3年度1,036人、令和4年度1,030人
		診療所からの紹介	10.6%	9.0%	8.8%	△0.2%	
		他病院からの紹介	31.0%	32.5%	30.4%	△2.1%	
		福祉施設等から	7.6%	4.8%	7.5%	2.7%	
		老健千束から	5.4%	4.2%	7.5%	3.3%	
	退院患者	自宅へ	41.6%	43.8%	41.3%	△2.5%	退院患者の総数は、令和2年度959人、令和3年度1,056人、令和4年度1,022人
		診療所への逆紹介	15.1%	16.1%	15.0%	△1.1%	
		他病院への転院	9.1%	8.4%	9.7%	1.3%	
		他病院の外来への紹介	4.3%	5.1%	4.4%	△0.7%	
		福祉施設等へ	10.2%	8.6%	11.2%	2.6%	
		老健千束へ	7.0%	6.5%	8.8%	2.3%	
	看取り	12.7%	11.5%	9.6%	△1.9%		
	新入所者	自宅から	27.3%	23.3%	26.1%	2.8%	新入所者の総数は、令和2年度143人、令和3年度180人、令和4年度207人
		福祉施設等から	5.6%	2.2%	1.4%	△0.8%	
台東病院から		46.8%	37.8%	43.5%	5.7%		
他の病院から		20.3%	36.7%	29.0%	△7.7%		
退所者	自宅へ	13.1%	13.4%	11.9%	△1.5%	退所者の総数は、令和2年度168人、令和3年度157人、令和4年度210人	
	福祉施設等へ	33.9%	35.0%	31.9%	△3.1%		
	台東病院へ	31.0%	28.0%	36.7%	8.7%		
	他の病院へ	8.3%	2.6%	4.3%	1.7%		
看取り	13.7%	21.0%	15.2%	△5.8%			
緊急一時病床利用者数	122人	99人	113人	14人	うち在宅療養患者の受入は47人		
退院前カンファレンス件数	120件	124件	110件	△14件	多職種による検討会の実施件数		
訪問リハビリテーション延べ利用者数	2,807件	3,148件	2,980件	△168件	平成23年2月より実施		

②経営分析

区分		R2年度	R3年度	R4年度	前年度比	備考	
台東病院	経常収支比率	93.9%	106.8%	111.2%	4.4%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0.9%	0.9%	0.8%	△0.1%	指定管理料÷総費用×100	
	医業収益に対する職員給与費比率	74.3%	65.6%	69.6%	4.0%	職員給与費÷医業収益×100	
	医業収益に対する委託費比率	9.0%	9.5%	9.0%	△0.5%	委託費÷医業収益×100	
	医業収益に対する材料費比率	15.2%	13.9%	15.1%	1.2%	材料費÷医業収益×100	
	病床利用率	82.1%	83.2%	81.5%	△1.7%	入院延べ患者数÷延べ病床数×100	
	1日外来患者数	218.5人	218.8人	219.2人	0.4人	延べ患者数÷外来診療日数	
	入院患者1人1日あたり診療収入	34,995円	36,138円	37,934円	1,796円	入院収益÷入院延べ患者数	
	外来患者1人1日あたり診療収入	7,913円	8,196円	8,566円	370円	外来収益÷外来延べ患者数	
	医師1人1日あたり診療収入	243,143円	258,110円	318,871円	60,761円	(入院収益+外来収益)÷年延べ医師数(看護・介護職員数)	
	看護・介護職員1人1日あたり診療収入	44,340円	52,778円	53,430円	652円		
	CT	稼働率	58.8%	47.2%	51.6%	4.4%	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(20件)×外来診療日数)×100*令和2年度については、CT更新による稼働停止期間(10診療日)を外來診療日数から減じて算出
		検査件数	3,448件	2,768件	3,025件	257件	
		うち検査依頼受付件数	401件	367件	333件	△34件	
MRI	稼働率	64.4%	62.1%	62.9%	0.8%	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(12件)×外来診療日数)×100	
	検査件数	2,265件	2,182件	2,211件	29人		
	うち検査依頼受付件数	463件	459件	447件	△12件		
老健千束	事業収支比率	100.9%	88.0%	88.2%	0.2%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0%	0%	0%	0%	指定管理料÷総費用×100	
	事業収益に対する職員給与費比率	68.8%	76.0%	71.3%	△4.7%	職員給与費÷事業収益×100	
	事業収益に対する委託費比率	13.0%	13.3%	12.0%	△1.3%	委託費÷事業収益×100	
	入所利用率	88.0%	83.0%	87.9%	4.9%	入所延べ患者数÷延べベッド数×100	
	1日通所利用者数	29.9人	23.4人	25.9人	2.5人	延べ利用者数÷通所運営日数	
	入所者1人1日あたり事業収益	16,475円	15,161円	17,050円	1,889円	入所収益÷入所延べ患者数	
	通所者1人1日あたり事業収益	11,484円	13,038円	12,432円	△606円	通所収益÷通所延べ患者数	

③計画性・改善状況等

区分		R2年度	R3年度	R4年度	前年度比	備考
講演会		3件	5件	6件	1件	喫煙防止教室
その他区民向けイベント		0件	0件	7件	7件	病院祭・認知症カフェ(6件)
投書件数		16件	10件	11件	1件	
	謝意	10件	6件	4件	△2件	
	助言	2件	2件	3件	1件	
	苦情	4件	2件	4件	2件	

主な意見と対応

【謝意】 ○ ・コロナ禍で通常の面会が制限されている中、終末期の患者に関しては感染対策を徹底した上で対面面談を実施していただけて、良い最期を迎えるができた。(入院患者のご家族様より)
 ・病棟等職員による献身的な温かい対応やリハビリの実施により、自力歩行できるようになった。(新型コロナウイルス感染症の後遺症による入院患者様より)
 ・施設ケアマネジャーを始め、相談員の皆様には事あるごとに相談に乗っていただき家族として心強かった。(老健で看取りケアをした利用者のご家族より)
 ・入所している母と上野動物園への遠足会に参加し、母との楽しい時間を過ごすことができた。また、他の介護家族とも悩みの共有を行うことができ、企画された方々に感謝している。(老健入所者のご家族様より)

【助言】 ○ 食事があまり美味しくなかったのを改善してほしい。
 ⇒ 食事内容の見直しなどの協議を実施する。

【苦情】 ○ 言葉遣いが悪い、偉そうに見える。
 ⇒ 全職種の職員に指導・共有を行うとともに接遇研修を実施し意識・技術の向上を図る。

④その他

居宅介護支援事業所千束(自主事業)

介護支援専門員は継続的に1名体制で運営している。介護給付管理件数は32.8件/月で推移した。(前年度33.9件/月)従前通り病院併設のメリットを生かして、他事業所にて対応が難しい医療行為のある在宅患者や処遇困難事例のケース担当を今後も継続的に担っていく。

4 評価

【評価の段階】

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等を概ね満たしている状態
C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

(1)役割・機能の評価

①台東病院が主に高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか	
【参考指標】患者実績(P4)など	
事業者評価 A	根拠 地域包括ケアを支えるため、訪問診療医からの依頼により、在宅療養患者を夜間休日を含めて延べ56名、近隣特養等からは延べ59名を緊急で受入れた。また特養に対しては、嘱託医の派遣や、施設入所前PCR検査の協力も継続実施している。区内近隣急性期病院からは、リハビリテーション、療養目的の患者を含め、延べ64名を受入れた。さらに、退院調整に関しては、入退院支援看護師を配置し、カンファレンス等の充実による在宅支援体制の強化を、また、療養病棟や老健千束における看取り対応(療養病棟患者の看取り割合44.7%)を行う等、当院の特徴であるケアミックス体制を最大限に活用し、地域の高齢者ニーズに即した慢性期医療を提供している。
協議会評価 A	根拠 在宅療養患者や近隣特養等入所者の緊急受入れ、特養に対する嘱託医の派遣や施設入所前PCR検査の実施、近隣急性期病院からリハビリテーション、療養目的のポストアキュートの患者を含めた受入れを行った。また、入退院支援看護師を配置することでのカンファレンス等の充実による在宅支援体制の強化、療養病棟や老健千束における看取り対応を行う等、慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。
②台東病院・老人保健施設千束が在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能しているか	
【参考指標】入所者実績、リハビリテーション実績(P4)など	
事業者評価 A	根拠 一般病棟では、ポストアキュート・サブアキュートの患者を近隣医療機関や施設から積極的に受入れた。また、退院前カンファレンスは、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面開催に制限はあったが、前年度同様、積極的にWeb開催をし、スムーズに在宅退院に繋げることができた。回復期リハビリテーション病棟の在宅復帰率は前年度から4.7ポイント増の96.2%となった。 老健については、令和3年度以降、感染予防対策のため、自宅への一時的な退所支援を停止したこと等により、在宅復帰率が低迷しているものの、これまで同様十分に検討した上で、在宅生活継続に向けた在宅復帰支援を行った。平成30年度に在宅復帰の強化等により取得した「在宅強化型」の施設基準も維持している。また、継続して短期入所療養介護における緊急ショートステイのサービス提供を積極的に行い、入所延べ日数は月平均で前年度24.9日に対し、今年度は29.3日と増加しており、在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能している。
協議会評価 A	根拠 病院は、一般病棟で、ポストアキュート・サブアキュートの患者を近隣医療機関や施設から積極的に受入れた。また、回復期リハビリテーション病棟の在宅復帰率は、前年度から4.7ポイント増の96.2%となった。退院前カンファレンスについても、新型コロナウイルス感染症の影響による制限がある中、積極的なWebの活用により開催した。 老健は、平成30年度に取得した「在宅強化型」の施設基準を維持しており、また、短期入所療養介護における緊急ショートステイのサービス提供を積極的に行った結果、入所延べ日数は月平均で増加した。 以上より、在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能していると評価できる。
③医療機関等との連携は適切に行われているか	
【参考指標】医療連携の実績(P5)など	
事業者評価 A	根拠 新型コロナウイルス感染症の影響により、従前の訪問による連携業務の再開には至らなかったが、メール等による空床情報の発信や、Webカンファレンスの更なる効率化等により、遅滞なく連携業務を実践した。また、新型コロナウイルス罹患後のリハビリテーションや療養継続のため、延べ44人の転院患者を受入れた。さらに在宅医療連携として、地区医師会との在宅療養支援患者登録制度のモデル事業を継続した。事業開始からの累計登録患者数は延べ9人で、定期的な検討会を実施している。
協議会評価 A	根拠 新型コロナウイルス感染症の影響による制限がある中でも、メール等による情報発信やWebカンファレンスの更なる効率化等により、遅滞なく連携業務を実施した。また、新型コロナウイルス感染症罹患後の転院患者の受入れや、地区医師会との在宅療養支援患者登録制度のモデル事業も継続しており、医療機関等との連携は適切に行われていると評価できる。

【備考】

病院では、平成31年3月に日本医療機能評価機構の病院機能評価(一般病院1)の更新審査を受審し、令和元年5月2日に認定を取得した。老健では、令和3年2月に第三者評価を受審している。共に評価項目ごと、機能や業務水準について評価・見直しを行っている。

(2)効率性・経済性の評価

①台東病院・老人保健施設千束の施設・機器等を効率的に活用しているか

【参考指標】経営分析結果(高額医療機器の稼働率)など

<p>事業者 評価 A</p>	<p>根拠 病院では、新型コロナウイルスワクチン接種や発熱外来を実施するなど、施設全体で区民への新型コロナウイルス対応に取り組んだ。近隣医療機関からのCT・MRIの検査依頼に関しては、検査、読影とも即日対応を実施している。また、検査時に異常が疑われる場合は依頼元医療機関と連携の上、高次の医療機関への転送支援を行っている。検査実績としてはCTは前年度比257件増の3,025件、MRIは前年度比29件増の2,211件であった。 老健では、一般療養棟と認知症専門療養棟を適切に活用できるよう、利用検討会議(入所前カンファレンス)において、診療情報提供書、認知症自立度等の評価内容を参考に、多職種で支援方針を検討し、適切なフロアへの入所調整を行っている。 以上により、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、施設・機器等を効率的に活用することができた。</p>
<p>協議会 評価 A</p>	<p>根拠 病院では、新型コロナウイルスワクチン接種や発熱外来を実施し、引き続き新型コロナウイルス対応に取り組んだ。また、CT・MRIについては、検査依頼に対し即日対応し、検査実績も前年度から増加している。 老健では、入所前カンファレンスにおいて、診療情報提供書、認知症自立度等の評価内容を参考に、多職種で支援方針を検討することで、一般療養棟と認知症専門療養棟への適切な入所調整を行えたことから、施設・機器等を効率的に活用していると評価できる。</p>

②台東病院・老人保健施設千束の一体的な事業運営の効率性は発揮されているか

※医業外及び事業外収支は評価対象外

【参考指標】経営分析結果(P6)など

<p>事業者 評価 B</p>	<p>根拠 病院と老健を合わせた事業収益は、前年度に比べ5,260万円増となったが、事業費用も1億9,700万円の増となり、全体として1億4,400万円減の2億9,100万円の赤字となった。収支については、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しており、病院は、前年度に比べ、医業収益は病床利用率低下のため、0.8%減少した。医業費用は、光熱水費等の高騰が大きく6.2%増加した。収支改善のために、病床利用率向上に取り組むことが必要と認識している。老健については、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しているものの、早期の入所調整や緊急ショートステイの受入れを積極的に行い、前年度に比べ事業収益が8.2%増加した。事業費用は病院と同様の理由により6.6%増加した。事業収益は、複数の新型コロナウイルス感染症陽性者発生のため想定より回復せず、利用率向上に取り組むことが必要と認識している。 また、病院からの老健入所者は延べ90人、老健から病院への入院患者は延べ77人と相互に連携して、入退院・入退所調整を実施している。さらに、施設内で新型コロナウイルスに感染した方が判明した際の病院・老健の一体的な対応として、最大週3回、臨時の感染対策会議を病院・老健合同で開催し、情報共有の上、延べ18人の陽性者を台東病院の急性期病棟で受入れた。感染対策における一体的な情報共有、物品の一元的な管理や購入等、従前からの効率性を意識した取り組みも引き続き実施している。</p>
<p>協議会 評価 A</p>	<p>根拠 本評価項目は、本来、医業外及び事業外収支は対象としておらず、医業及び事業収支に着目すると赤字である。しかし、新型コロナウイルス感染症対応に尽力し、医業外及び事業外収益である同関連補助金を考慮すると、施設全体では黒字となっている。今回の評価については、令和4年度の情勢を鑑み、医業外及び事業外収支も含めて行うこととし、施設全体での医業外及び事業外を含めた収支が黒字であること、また、病院・老健相互に連携しての入退院・入退所調整や、合同での感染症対策会議、陽性者の病院急性期病棟での受入れ等を実施していることから、一体的な事業運営の効率性は発揮されていると評価できる。</p>

(3)計画性・改善状況等の評価

①前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか	
事業者評価 A	根拠 「区立病院として、効率的な運営と採算性ととらわれない事業を、引き続き実施していただきたい。」との意見については、新型コロナウイルスワクチン接種事業を継続実施し、令和4年度は、16,567人の接種を行った。(接種当初から延べ58,262人)また、発熱外来を継続して行い、延べ3,342人に診療・検査を行った。さらに区との連携による区内高齢者施設入所前PCR検査事業や、在宅における介護者の新型コロナウイルス感染症罹患による要介護者の緊急入院等に協力した。 「老健で試験的に実施しているメディカルショートステイは、今後、本格的に実施していただきたい。」との意見については、メディカルショートステイ(入院加療を要しない程度の治療をショートステイで提供すること)のサービス提供が本格運用に至り、区内の地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所へ周知を行っている。なお、令和4年度の実績は6件であった。
協議会評価 A	根拠 新型コロナウイルスワクチン接種事業、発熱外来、区内高齢者施設入所前PCR検査、介護者の新型コロナウイルス感染症罹患による要介護者の緊急入院の受入れを行い、また、メディカルショートステイの本格的な実施を開始したことから、前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしていると評価できる。

②利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営や、利用者の満足度向上に活かしているか

【参考指標】利用者からの主な意見と対応(P6)など

事業者評価 A	根拠 新型コロナウイルス感染症の影響が継続したことにより、利用者からの投書は少なかった。しかし、令和5年1月23日から28日に外来患者及びワクチン接種来院者に対し、紙及び新たな取り組みとして二次元コードを使用した患者満足度調査を実施し、利用者の意見への対応や満足度向上に取り組んだ。今後も、二次元コードによる調査も含め、満足度向上に継続的に取り組む。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが5類感染症となったことに伴い、今後、入院・入所者の調査も再開を検討する。 また、条件付きではあるが、面会対応等を実施し、利用者からの意見への対応や満足度向上に取り組んだ。様々な場所で頂いた意見に対しては、一括管理を行い、意見の内容、対応に関して職員間での共有を行っている。
協議会評価 A	根拠 新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度及び3年度に未実施となっていた満足度調査を、外来患者及びワクチン接種来院者に対し実施した。調査方法も、従来の紙媒体だけでなく、新たな取り組みとして二次元コードを使用した。今回の取り組みに加え、入院・入所者への調査の再開も検討している。利用者からの意見は職員間で共有し、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも面会対応を実施する等、意見を取り入れ、運営や満足度向上に活かしていると評価できる。

③区立の病院・老人保健施設として、他機関では対応が困難なケースの受入れや区民向けに特化した事業等、採算性ととらわれず事業を実施しているか

事業者評価 A	根拠 近隣特養入所者や発熱外来等で新型コロナウイルス感染症に罹患したことが判明した患者(疑似症例を含む)10名を急性期病棟で受入れ、うち3名が専門医療機関へ転院となったが、残り7名を症状が軽快するまで継続加療を行った。また、台東区からの要請を受け新型コロナウイルス感染症後遺症相談窓口を開設し、必要に応じ当院にて外来加療を行った。 老健では従来より、他の老健では対応困難と思われる看取りや医療依存度の高い利用者の受入れを積極的に行ってきた。その結果、看取り件数が増加している他、施設内での肺炎等の治療実績は、前年度の延べ457日から、今年度は延べ548日に増加している。また、令和3年度より、試験的に開始したメディカルショートステイのサービス提供が本格運用となり、特に点滴、投薬治療等の治療を要する場合に算定できる「総合医学管理加算」の算定件数も前年度の延べ32日から、今年度は延べ37日に微増している なお、虐待案件、重度認知症、独居高齢者の患者等の受入れにも引き続き対応している。これらの案件は、一部加算等がつくものの採算性は見込めないが、他の老健では一般的に難しいケースであるため、積極的に受入れを行っている。
協議会評価 A	根拠 病院では、新型コロナウイルス感染症患者の受入れや、同感染症後遺症相談窓口を開設した。また、老健では、医療依存度の高い利用者の受入れ、看取り対応、メディカルショートステイの本格運用を行った。 引き続き虐待案件、重度認知症、独居高齢者の患者の積極的な受入れも行っており、他機関では対応が困難なケースの受入れを行うなど、採算性ととらわれず事業を実施していると評価できる。

④医療従事者の安定的な確保、職員の能力開発や職場の人材育成、組織の持続的成長や環境の変化への適応など、理念を実現する取り組みを推進しているか

<p>事業者評価</p> <p>A</p>	<p>根拠</p> <p>確保困難職種の看護師や介護士確保のため、学校訪問の実施や就職セミナーに参加する等、新卒採用を含め人材確保の取り組みを継続的に行っている。また、技能実習生の受入れや特定技能生の活用も行っている。</p> <p>人材育成等については、新規採用時から複数年の研修計画を部門毎に作成することとし、多職種で連携した教育に取り組んでいる。また、Webを使用した勉強会や会議を継続して実施した。年度当初に目標設定した収益や稼働率については、毎月初日に開催する全体朝礼及び第2水曜日に開催する事業推進会議にて、継続して目標に対しての進捗状況の確認や課題の検討を行い、改善策や問題点を抽出している。看護師、コメディカル職員等に対しては、認定看護師、特定看護師、大学院修士、介護支援専門員などの資格取得支援を行っている。</p> <p>また、毎週金曜日に開催する幹部会議でも職員が病院及び老健のあり方、目指すべき目標の問題点・改善点を認識、実行できるように協議している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症については、ワクチン接種へ積極的に協力及び都度変化に対応した。発熱外来の実施や後遺症相談窓口の設置など、感染状況に応じた対策も講じた。また、新型コロナウイルス感染症対策会議は、適宜開催し、早急な計画立案を行う等感染予防対策を徹底して行えた。</p>
<p>協議会評価</p> <p>A</p>	<p>根拠</p> <p>確保困難職種の看護師や介護士確保のために、学校訪問の実施や技能実習生の受入れ等、新卒採用を含めた多様な取り組みを積極的に行っている。また、人材育成等のために、多職種で連携した教育や勉強会を実施し、看護師、コメディカル職員等に対しては、資格取得支援を行っている。さらに、組織の持続的成長のために、目標に対する定期的な進捗状況の確認等を行っている。感染症対策会議を適宜開催し、早急な計画立案を行う等、環境の変化にも適応し、理念を実現する取り組みを推進していると評価できる。</p>

5 総合評価等

【総合評価】

台東病院については、在宅療養患者等の緊急受入れ、特養に対する嘱託医の派遣等による協力、近隣急性期病院からポストアキュートの患者等の受入れを行い、また、入退院支援看護師を配置等による在宅支援体制の強化や、看取り対応を行う等、慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。新型コロナウイルスへの対応については、ワクチン接種事業、発熱外来、区内高齢者施設入所前PCR検査、介護者の新型コロナウイルス感染症罹患による要介護者の緊急入院の受入れを行い、前年度の運営協議会の意見を運営に活かしていると評価できる。

老健千束については、平成30年度に取得した「在宅強化型」の施設基準を維持しており、また、短期入所療養介護における緊急ショートステイのサービス提供を積極的に行った結果、入所延べ日数は月平均で増加した。メディカルショートステイについても本格的な実施を開始したことから、こちらも前年度の運営協議会の意見を運営に活かしていると評価できる。

収支については、医業及び事業収支については赤字であるが、新型コロナウイルス感染症対応に尽力し、医業外及び事業外収益である同関連補助金を考慮すると、施設全体では黒字となった。

その他施設の運営については、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度及び3年度に未実施となっていた満足度調査を、新たな方法も加え、外来患者及びワクチン接種来院者に対し実施した。今後は、入院・入所者への調査の再開も求められる。

今後とも、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、利用者や運営協議会等の意見を活かしながら、区や地域の医療機関等と連携して、質の高いサービスの提供を図ることが求められる。

【その他意見】

- 近隣医療機関からのCT・MRIの検査依頼に対する、検査、読影の即日対応を、今後も続けてほしい。
- 職員が生き生きと働くことができ、能力を発揮できるよう、組織としてサポートをしてほしい。